

令和 7 年度宮城県ニホンザル管理事業業務報告書 概 要 版

1. モニタリング調査

現地調査及び計画区域市町への聞き取り等により、県内に生息するニホンザルの生息状況をモニタリングした。その結果、県内にニホンザルの群れ 63 群の生息が確認された。群れ数の増減について、「二口 A1 群」（仙台・川崎ポピュレーション）、「七ヶ宿 F 群」（七ヶ宿ポピュレーション）、「大内 B 群」（丸森東部ポピュレーション）の 3 群が捕獲により個体数が減少した結果、消滅に至ったことが把握された。一方で、新たに 4 群の生息と 1 群の分裂が確認された。新たに生息が確認された群れは、「泣面山の群れ」（仙台・川崎ポピュレーション）と「田堀川不明群」（七ヶ宿ポピュレーション）、「白根・山舟生群」（丸森東部ポピュレーション）、「亘理町不明群」（ポピュレーション不明）である。このうち、「田堀川不明群」については「七ヶ宿 D 群」の分裂によって生じた可能性が高いと考えられるが、その確証は得られていない。「泣面山の群れ」は川崎町内の山域に生息していた群れが下流域に進出してきたもの、「白根・山舟生群」は福島県伊達市側から丸森町内へ進出してきたものと考えられる。「亘理町不明群」は周辺地域に群れの生息は確認されておらず、その由来が不明である。個体数は 4 頭（うちオトナメス 2 頭）と小規模で、聞き取り調査により昨年度から角田市東根地区周辺地域に出没しており、今年度の夏以降は亘理町北猿田地区周辺地域に継続して出没していることがわかった。新たに分裂が確認されたのは「薄平の群れ」で、その分裂群はそれぞれ「薄平 A 群」、「薄平 B 群」とした。生息が確認された 63 群の空間配置を図 1 に示す。

本委託業務で実施した調査結果と市町村等が実施した個体数調査の結果を反映し、県内に生息する群れの推定個体数を更新した。宮城県に生息する群れの個体数一覧を表 1 に示す。その結果、県内のニホンザルの推定個体数は約 3,097 頭となり、令和 6 年度との比較では約 220 頭の増加となった。この増加には、個体数が 234 頭と極めて規模が大きい「白根・山舟生群」の宮城県内の利用が新たに確認されたことが大きく影響している。

ただし、全体のおおよそ半数の群れで昨年度までの推定個体数を引き継ぐ形となっており、群れ毎に過小評価や過大評価となっている可能性が高いことから、これらの数値の扱いには注意が必要である。

群れ外オスについては、県全体の出没状況を県や市町村からの情報提供等により把握した。今年度は、気仙沼市、南三陸町、仙台市、山元町から複数の出没情報が得られた。

2. GPS 首輪を用いた行動追跡調査

丸森西部ポピュレーションに属する 1 群と丸森東部ポピュレーションに属する 5 群を対象に、生体捕獲及び GPS 首輪の装着を行った。得られた測位データを GIS アプリケーションを用いて図化し、推定遊動域及び植生利用傾向について分析を行った。例として「大内 A1-1 群」の分析結果を図 2 に示す。

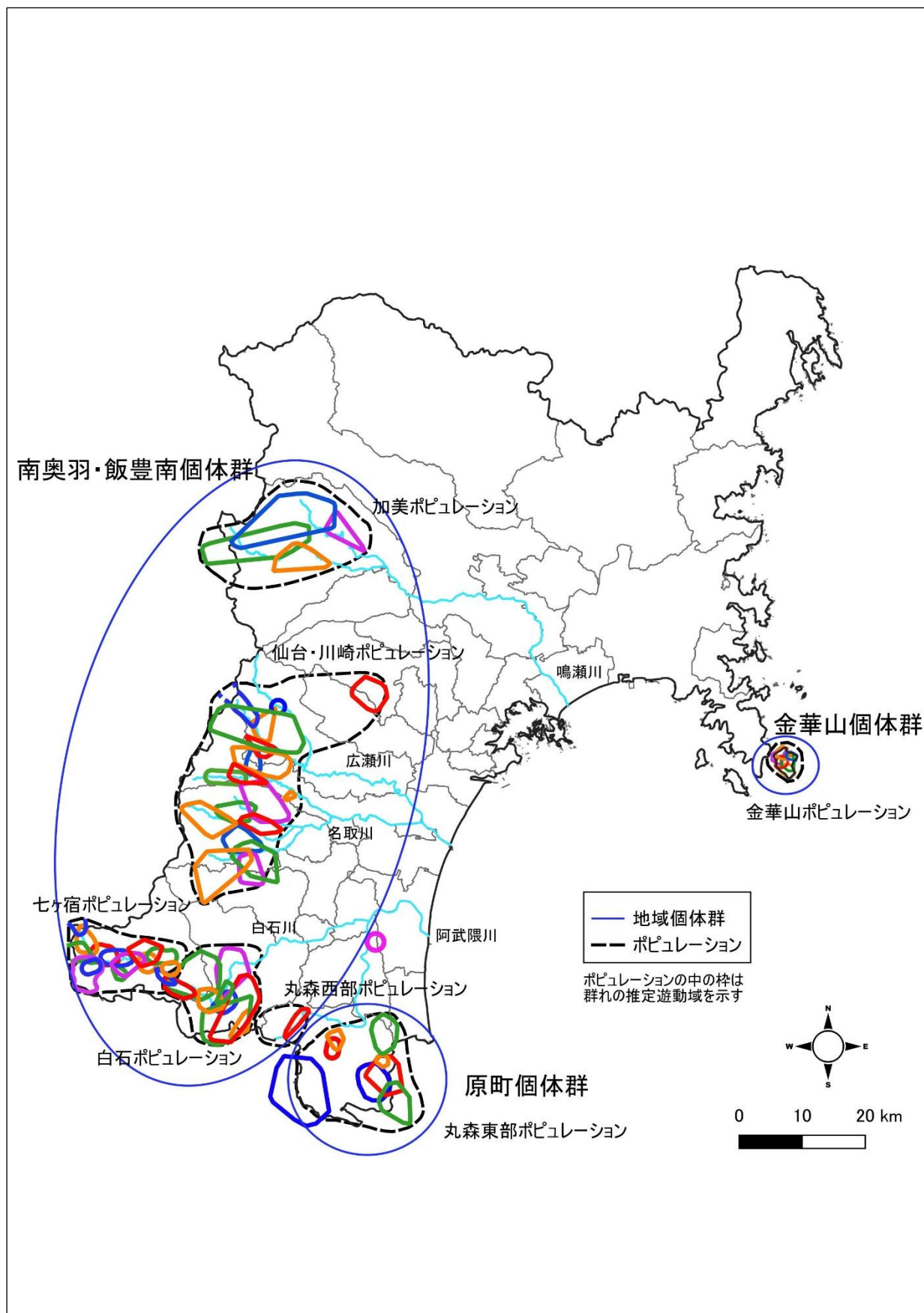


図1 宮城県におけるニホンザルの群れの空間配置

表1 宮城県に生息する群れの個体数一覧

No.	ポピュレーション(P)	P-No.	群れ名	推定個体数		備考
				R6	R7*	
1	加美	1	「小野田A群」	26	26	全頭捕獲に至った可能性があるが、確証は得られていない。 捕獲により群れの消滅に近い状況。
2	加美	2	「小野田B群」	0	0	
3	加美	3	「宮崎B群」	9	15	
4	加美	4	「寒風沢の群れ」	50	50	
小計				85	91	
5	仙台・川崎	1	「定義B群」	7	7	H28年度以降に推定個体数が更新されておらず、変動している可能性が高い。
6	仙台・川崎	2	「関山峠A群」	23	23	R2年度以降に推定個体数が更新されておらず、変動している可能性が高い。
7	仙台・川崎	3	「関山峠B群」	20	20	
8	仙台・川崎	4	「奥新川B1群」	67	80	
9	仙台・川崎	5	「奥新川B3群」	24	26	
-	仙台・川崎	-	「二〇A1群」	5	0	捕獲により個体数が減少した結果、群れの消滅に至った。
10	仙台・川崎	6	「二〇A2群」	20	20	R2年度以降生息確認が無く、個体数が変動している可能性が高い。
11	仙台・川崎	7	「二〇B群」	43	58	
12	仙台・川崎	8	「高倉山A群」	35	35	
13	仙台・川崎	9	「高倉山B群」	23	32	
14	仙台・川崎	10	「高倉山C群」	66	68	捕獲による個体数の大幅な減少。群れの消滅に極めて近い状況。
15	仙台・川崎	11	「姉滝不明群」	30	30	
16	仙台・川崎	12	「三森山の群れ」	123	76	
17	仙台・川崎	13	「本砂金の群れ」	14	3	
18	仙台・川崎	14	「太郎川の群れ」	58	58	今年度新たに生息を確認。
19	仙台・川崎	15	「泣面山の群れ」	-	50	
20	仙台・川崎	16	「小屋沢の群れ」	30	30	
21	仙台・川崎	17	「笹谷峠A1群」	35	35	
22	仙台・川崎	18	「笹谷峠A2群」	32	30	捕獲による個体数の大幅な減少。群れの消滅に極めて近い状況。
23	仙台・川崎	19	「笹谷峠B群」	36	16	
24	仙台・川崎	20	「青根の群れ」	30	30	
小計				721	727	
25	七ヶ宿	1	「七ヶ宿A群」	19	19	捕獲個体データから群れの消滅に近い状況となっている可能性あり。
26	七ヶ宿	2	「七ヶ宿B群」	15	15	捕獲個体データから群れの消滅に近い状況となっている可能性あり。
27	七ヶ宿	3	「七ヶ宿C群」	52	52	H28年度以降推定個体数が更新されておらず、変動している可能性が高い。
28	七ヶ宿	4	「七ヶ宿D群」	121	121	H28年度以降推定個体数が更新されておらず、変動している可能性が高い。
29	七ヶ宿	5	「七ヶ宿E群」	38	50	捕獲により個体数が減少した結果、群れの消滅に至った。
-	七ヶ宿	-	「七ヶ宿F群」	4	0	
30	七ヶ宿	6	「七ヶ宿G1群」	21	21	
31	七ヶ宿	7	「七ヶ宿G2群」	30	30	
32	七ヶ宿	8	「七ヶ宿H群」	57	57	H28年度以降推定個体数が更新されておらず、変動している可能性が高い。
33	七ヶ宿	9	「七ヶ宿I群」	37	13	捕獲による個体数の大幅な減少。群れの消滅に極めて近い状況。
34	七ヶ宿	10	「七ヶ宿J群」	53	53	捕獲個体データから個体数が推定値を下回っている可能性あり。
35	七ヶ宿	11	「七ヶ宿K群」	28	28	捕獲個体データから群れの消滅に近い状況となっている可能性あり。
36	七ヶ宿	12	「七ヶ宿L群」	53	41	H28年度以降推定個体数が更新されておらず、変動している可能性が高い。 今年度新たに生息を確認。
37	七ヶ宿	13	「七ヶ宿M群」	56	56	
38	七ヶ宿	14	「田堀川不明群」	-	30	
小計				584	586	
						多くの群れで、推定個体数が過大評価となっている可能性が高い。
39	白石	1	「戸沢A群」	7	7	R3年度以降に分裂した可能性が高いが、分裂群の生息情報は確認できていない。
40	白石	2	「戸沢B群」	37	37	
41	白石	3	「猿鼻A群」	14	14	
42	白石	4	「猿鼻B群」	26	26	
43	白石	5	「江志前B群」	42	42	
44	白石	6	「江志前A2群」	35	35	
45	白石	7	「上戸沢の群れ」	126	126	
46	白石	8	「越河の群れ」	12	12	
47	白石	9	「倉川B群」	58	58	
小計				357	357	
48	丸森西部	1	「耕野の群れ」	18	11	R2年度以降に分裂した可能性が高いが、分裂群の生息情報は確認できていない。
小計				18	11	
49	丸森東部	1	「青葉の群れ」	12	18	捕獲による個体数の大幅な減少。群れの消滅に近い状況。
50	丸森東部	2	「大内A1-1群」	50	50	捕獲による個体数の大幅な減少。群れの消滅に近い状況。
51	丸森東部	3	「大内A1-2群」	55	19	
52	丸森東部	4	「大内A2群」	20	16	
53	丸森東部	5	「大内A3群」	56	34	
-	丸森東部	-	「大内B群」	0	0	捕獲により個体数が減少した結果、群れの消滅に至った。
-	丸森東部	-	「薄平の群れ」	42	-	「薄平A群」と「薄平B群」に分裂していることを確認。
54	丸森東部	6	「薄平A群」	-	31	福島県伊達市が実施した調査により、丸森町内の利用を新たに確認。
55	丸森東部	7	「薄平B群」	-	20	
56	丸森東部	8	「白根・山舟生群」	-	234	
小計				235	422	
57	不明	1	亘理町不明群	-	4	今年度新たに生息を確認。
小計				0	4	
58 ～ 63	金華山	1 ～ 6	6群と群れ外オスの合計	277	240	
群れ個体数計(金華山を除く)				2000	2198	※ 赤字は今年度に推定個体数が更新されたことを示す。
群れ外オス(金華山を除く)				600	659	
金華山ポピュレーション				277	240	
合計				2877	3097	

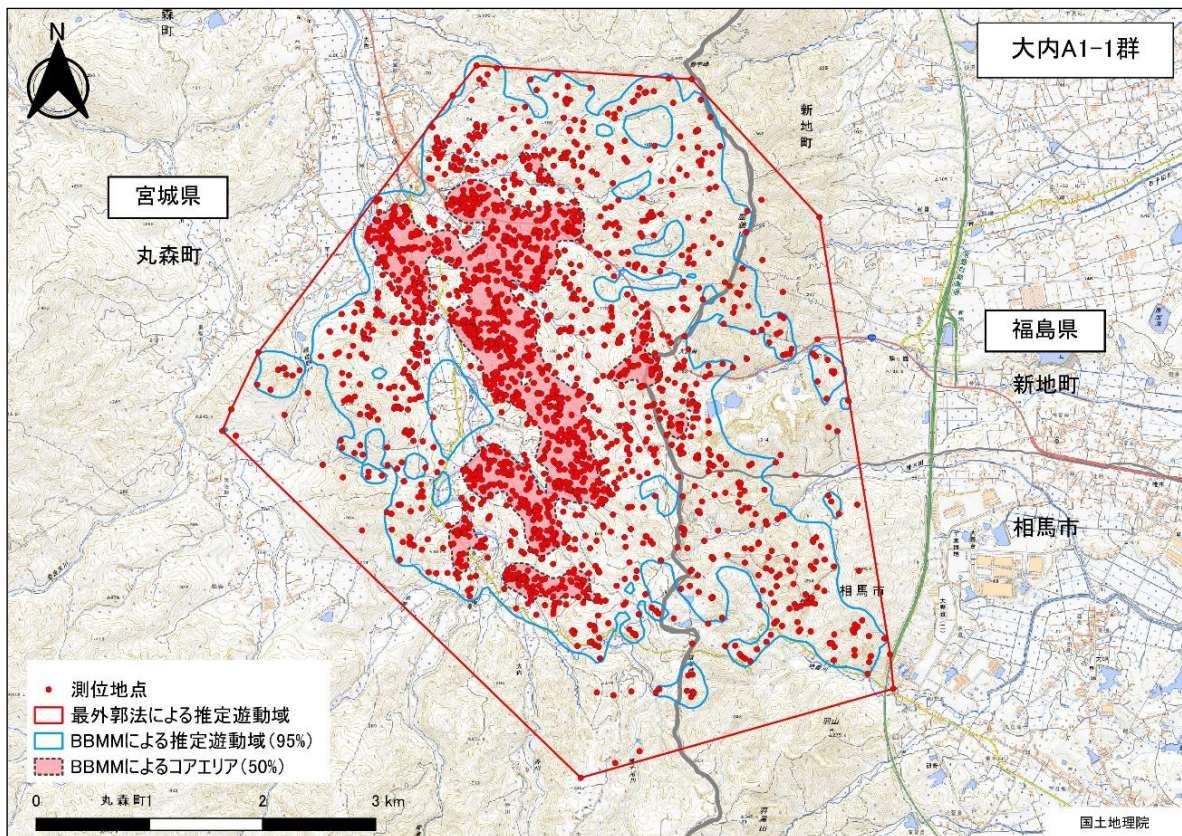
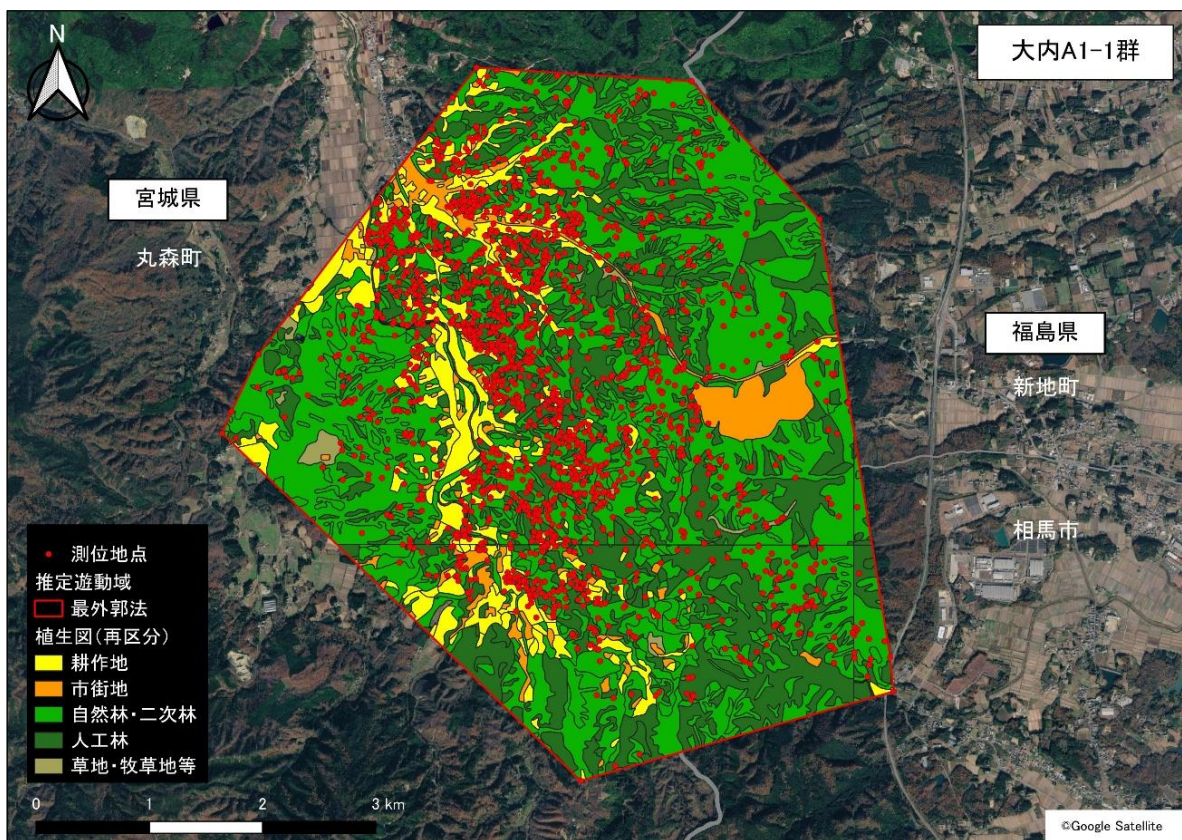


図2 「大内 A1-1 群」の測位データの分析結果（上：推定遊動域、下：植生利用傾向）

3. 群れの評価と個体数の調査

丸森西部ポピュレーションに属する 1 群と丸森東部ポピュレーションに属する 5 群を対象に、追跡調査をそれぞれ 3 日間以上実施して、群れの行動特性に関するデータを収集した。得られたデータを「第五期宮城県ニホンザル管理計画」の「群れ評価の判定基準」にあてはめ、群れの評価を判定した。判定結果を表 2 に示した。

また、個体数調査の対象となっている 7 群について現地調査を実施し、全数カウントにより個体数を把握した。

表 2 群れの評価の判定結果

ポピュレーション	群れ名	人に対する反応	農地への出方	住宅地への出方	各種威嚇に対する反応	追いつきのしやすさの程度	評価レベル
丸森西部	耕野の群れ	E	D～E	E	D	D	D～E
丸森東部	大内 A1-1 群	C	D	D	B～C	F	D
	大内 A1-2 群	C	C	C	D～E	E	C～D
	大内 A2 群	B～C	C～D	C～D	C	F	C～D
	大内 A3 群	B～C	C	C	C	E	C
	薄平 A 群	C	E	D	B～C	E	D

4. 計画区域市町との情報共有

各ポピュレーションにおけるニホンザルについて適正な管理を図るため、計画区域市町と適宜打ち合わせ等を行い、群れの生息状況、群れ外オスの出没状況、調査実施状況、捕獲状況等について情報共有を行った。計画区域市町から得られた情報について、報告書内に反映した。

5. 調査分析

(1) 調査に関する効果や問題点

本委託業務で実施した各種調査の効果や問題点とそれに対する改善策に抽出した。効果として主なものでは、県内に生息する群れの生息状況や行動特性とその変化の把握が可能となることが挙げられる。問題点としては、群れ評価を目的とした追跡調査の実施時期に関する事項が挙げられる。一部の指定対象群において、当初発信機が未装着であったため、本委託業務による GPS 首輪の装着を待って、11 月以降に追跡調査を実施せざるを得なかった。評価項目のうち「農地への出方」を適正に判定するためには、農繁期（9 月下旬まで）に調査を実施することが望ましい。今後、当該時期までに追跡調査の開始が見込めない場合には、評価の妥当性を担保する観点から、追跡調査とそれに基づく群れ評価の判定を翌年度に順延するといった対応を検討することも必要だろう。しかし、各計画市町で銃器による捕獲が一年を通して実施されている現状では、GPS 首輪装着個体が誤射されるリスクも考慮する必要がある。そうなった場合、群れ内に他に発信機個体が存在しなければ、追跡調査の実施が困難となるため、調査順延の検討にあたっては慎重な判断が必要となると考えられる。また、ポピュレーション毎に抽出された生息状況調査や捕獲に関する現状の問題点を表 3 に示した。

表3 生息状況調査や捕獲に関する現状の問題点

ポピュレーション	問題点
加美	<p>(生息状況調査について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加美町においては、町独自の生息状況調査が実施されておらず、本委託事業が群れの動態を把握する唯一の機会となっている。しかし、現状の調査周期（5年に1度）では、調査間に生じた群れの変化を適時に捉えることが困難である。
仙台・川崎	<p>(捕獲について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎町では複数の群れの遊動域が重複する地区に大型檻が設置されており、実際に複数の群れの個体が捕獲されていることが示唆された。大型檻を用いた多頭捕獲は、強度な餌付けを伴うことから、加害レベルの低い群れが餌付いた場合には、捕獲作業そのものが群れの人里への依存度を高め、加害行動をエスカレートさせてしまうことが懸念される。 ・隣接群と推定遊動域が重複しない地域に大型檻を設置し、かつ関係者間の合意形成を図った上で計画的に捕獲を実施するよう、理解を求めていく必要がある。
七ヶ宿	<p>(生息状況調査について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・七ヶ宿町の西部に生息する多くの群れは、発信機が装着されていないことから群れの発見や追跡が困難で、近年多くの群れで推定個体数が更新できていない。 ・捕獲により群れ数や各群れの個体数や遊動域が変化している可能性が高いと考えられる。しかし、日常的な銃器による高い捕獲圧により、サルの警戒心が極めて高い状態にあり、麻酔銃を用いた生体捕獲が極めて困難な状況にあることから、GPS首輪の装着を軸とした調査の実施は困難である。 ・実施隊によれば今年度は集落周辺で群れを見かける機会が多かったとの情報が得られており、箱わなを用いた捕獲を試み、捕獲個体にGPS首輪を装着することも一考の余地がある。 ・また、箱わなによる捕獲も困難な場合には、冬季を中心に目視や足跡による群れの搜索を軸とした調査を集中的かつ連日で実施し、生息群れ数及び冬季の各群れの利用地域や個体数をおおまかにでも把握していく必要がある。 <p>(捕獲について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在七ヶ宿町では、大型檻を用いた捕獲は実施されておらず、主に銃器を用いた捕獲が実施されているが、捕獲頭数が多い状態が継続しており、結果的に意図せず多頭捕獲が行われている状況となっている。実際に群れの消滅に近い状況にある群れが複数存在する。群れ毎の捕獲目標頭数を設定する等、計画的な捕獲が実施されるよう、理解を求めていく必要がある。
丸森・東部	<p>(捕獲について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸森町では複数の群れの遊動域が重複する地区に大型檻が設置されており、実際に複数の群れの個体が捕獲されていることが示唆された。大型檻を用いた多頭捕獲は、強度な餌付けを伴うことから、加害レベルの低い群れが餌付いた場合には、捕獲作業そのものが群れの人里への依存度を高め、加害行動をエスカレートさせてしまうことが懸念される。 ・隣接群と推定遊動域が重複しない地域に大型檻を設置し、かつ関係者間の合意形成を図った上で計画的に捕獲を実施するよう、理解を求めていく必要がある。

(2)捕獲個体情報の収集

計画区域市町に令和 7 年度のニホンザルの捕獲個体データの提供を依頼し、提供を受けたデータを市町村毎に集計した。また、捕獲個体の捕獲年月日、捕獲地区名、捕獲方法、群れ名、性別、年齢、体重、体長のデータを一覧表に整理した。各計画区域市町での捕獲頭数は、加美町 14 頭、仙台市 33 頭、大和町 0 頭、川崎町 150 頭、蔵王町 10 頭、七ヶ宿町 122 頭、白石市 20 頭、角田市 0 頭、丸森町 29 頭、山元町 0 頭で、県内の捕獲頭数の合計は 378 頭だった。